

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 豊橋市立大清水小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
所在地 〒441-8132 愛知県豊橋市南大清水町字元町 78 番地
E-mail ooshimizu-e@toyohashi.ed.jp
Website http://www.ooshimizu-e.toyohashi.ed.jp
幼児児童生徒数 男子 182 名 女子 173 名 合計 355 名
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、「地域に愛着をもち自ら活動できる大清水っ子」をテーマに、総合的な学習や教科などで ESD を進めている。ESD の実践を「他者と関わり協力・協同して実践する」「地域社会に主体的に参加する」「多面的に物事を考え自ら実践する」態度や能力を育てる場ととらえ、地域のさまざまなキャリアをもつ方々との交流を行っている。

具体的には、①環境に係わる活動、②伝統文化に係わる教育、④福祉・人権に係わる学習を行った。

① 環境に係わる活動

4 年 「ぼくら大清水環境調査隊」

社会科の学習を通して、ごみの分別の大切さに気づいた。それをもとに、「ぼくら大清水環境調査隊」として自分たちで環境を守るためには、どうしたらよいかを考えた。学校や家庭で出るごみを調査したり、分別したりして、ごみの減量に取り組んだ。また、地域のゴミステーションを管理する方や用務員さんの苦勞を知り、一人一人の心がけが、環境を守ることに気づくことができた。これらの学びを、ポスターにしてみんなに呼びかける活動を行い、

主体性を培うことができた。

5年 「米コメの会」

地域のおいしい米を自分たちでも作ろうと米作りに挑戦した。田植えから成長観察、稲刈りの活動を通しておいしい米を作るためには多くの苦労や努力があることを体感した。できた米を調理して、お世話になった方々をお招きして「米コメの会」を開催した。自分たちで苦労して収穫した米の味は格別で、地域の農業を支えていきたいという思いが育てられた。

② 伝統文化に係わる教育

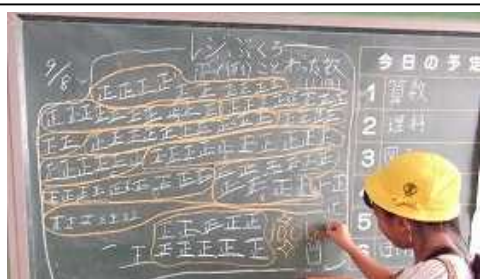
3年 「きらりしょうぶ園まつり」

地域に群生していた「ノハナショウブ」について地域の「しょうぶの会」の方々から教えてもらい、水やりや土の整備、株分け作業についてもご指導をいただきながら行った。その後、きれいに咲いたショウブを一年生にも見ってもらうために「きらりしょうぶ園まつり」を計画した。当日は、一年生に自分たちの考えたクイズや遊びをすすんで紹介する姿が見られた。また休みの日に地域の行事として行われている株分け作業にもすすんで参加し、地域の花を大切にしたいという思いがはぐくまれた。

③ 福祉・人権に係わる学習

6年 「支え合って生きる」

総合的な学習で福祉を学習した。認知症調べや車椅子体験、高齢者疑似体験をする中で障害のある方やお年寄りのたいへんさを知り、困っている人を助けたいという思いをもった。その後、地域の「元町グループホーム」との交流会を行い、お年寄りの方々が楽しんでくれる遊びを考えた。相手の立場に立った内容を考え、常に笑顔で積極的にコミュニケーションする姿が見られた。その後、学んだことを壁新聞に表し、地域の方々へ発信した。係わり合い、助け合うことの大切さを学び、社会に参画する力が育成された。



①の写真「レジ袋を断った数を記録」



①の写真「地域の方から稲刈り指導」



③の写真「ショウブの株分け作業」



④の写真「グループホームでお年寄りの方と交流」

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

地域の歴史本「大清水の絆」

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

各学年の教育課程を作成し、総合的な学習がそれぞれの教科と関連づけて学習できるようにしている。また、総合的な学習のカリキュラムを作成するにあたっては、発達段階にあっているか、重複した内容はないか、地域と連携して活動できるか、子どもたちが自ら考え働きかけることができる計画になっているかなどの点について検討している。特に、調べ学習で終わらず常に自分事として考え話し合い、他者に知らせ働きかけるためにはどうすればよいかを試行錯誤できる時間を設けるとともに、発信活動を位置づけるようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

地域の行事や伝統文化・施設などをピックアップし、それらがどの学年と関連できるか考えている。また、各学年でおさえるべき内容を系統立ててとらえ、毎年カリキュラムの見直しを行っている。地域の方々には、学校の教育内容について自治会や敬老会などを通じてお知らせし、協力を仰いでいる。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

地域の自治会長や民営委員、有識者などで構成されている学校評議員の方々や保護者の学校アンケートをもとに評価を行っている。昨年度も今年度も90%以上の方々がESD教育推進を評価してくださった。来年度はじめて地域防災活動が実施されるにあたり、再度カリキュラムを見直し、内容を入れ替えたり考え直したりして子どもたちも参画できるようにしていく。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

各学年で活動した内容や学習から得られた知識や思いのまとめとして新聞に表した。保護者や地域の方が訪れる参観日に掲示したり、お便りなどに掲載したりして、児童の学習の様子を学習の様子を発信した。文字にして表すことで子どもたちにとっては学びを改めて自分のものにすることができた。また保護者や地域の方にとっては子どもたちの考えを知り、成長を感じることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

1年「お年寄りの方から遊びを学ぶ」2年「園児のお世話をしながら作物を育てる」3年「地域の花・菖蒲について地域の方から教えていただき育てる」4年「地域の公園の環境を地域の方とともに守る」5年「地域の方に教わりながら米づくりをする」6年「地域の福祉施設に通いボランティアを体験する」と、学習にあたっては、すべての学年で地域の方との係わりが得られる内容を取り入れている。また、地域の小中学校が集まり成果について発表し合う活動を行ったことでよい刺激を得ることができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

今年度は行っていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

6年の子どもたちは福祉体験から、お年寄りの方や障がいのある方の大変さが理解でき、自分たちにできることを実践していきたいとの思いをもつことができた。そのまとめを壁新聞に表し、市民館に掲示したり、市民館祭りで福祉体験での学びを発表したりした。子どもたちの考えを見たり聞いたりした地域の方から、喜びの感想と子どもたちを頼りにする声が聞かれた。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

今年度は子どもたちへの教師側の働きかけによって活動が行われている感じであった。そこで、今年度の反省を生かし来年度は子どもたち自ら課題を発見し、活動に結びつけることができるような内容を考える。社会科や国語科、特別の教科道徳などの学びが子どもたちの活動につながるように総合的な学習を構想する。また、学年を追って系統立てて学習できるようにカリキュラムを組み直していく。

子どもたちが活動をするごとに得られた思いや学びをまとめ、地域に発信していく。それによって地域とのかかわりを増やし、地域の方からの反響が得られ、それが新たな学びにつながるようにしていく。